

# 令和3年度 自己評価書

学校名	和歌山市立岡崎小学校
校長氏名	塩谷 通功
作成日	令和 4年 2月 15日

## 1 教育目標

強いからだと豊かな心を養い、自ら課題を求め、よりよく生きようとする子どもの育成

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	○県学習到達度調査において、特に「書く」領域での県平均値以上を目指す。 ○アンケート「子供にわかりやすい授業の工夫をしている」で、95%以上を目指す。	○「いじめをなくす学校・学級づくりに取り組んでいる」で、保護者85%以上を目指す。 ○縦割りでの活動を、より増やしていく。	○毎日朝ごはんを食べてくる児童95%以上を目指す。 ○大休憩ランニングなど、体力の向上を図る取組を増やしていく。 ○設定を変えて、学期に一度は防災訓練を行う。	○保護者アンケート「教育活動や子どもの様子を分かりやすく知らせている」で、90%以上をめざす。 ○ゲストティーチャー等、多くの方々に学校に来ていただき、地域に開かれた学校をめざす。
重点目標【P】	◎思考力・判断力・表現力の育成 ◎子どもを主体とした、授業づくり ○知識及び技能の習得 ○基本的生活習慣の定着	◎道徳教育を柱とした教育活動の充実 ◎人権意識を高め、自他共に大切にする教育の実践 ○縦割り活動等、仲間づくりの実践	◎基本的生活習慣の定着 ◎体力向上の推進 ○安全教育の推進	◎家庭・地域との連携を深める ○地域人材の活用や資源の活用を図る
取組の状況【D】	・めあての提示、書く活動を取り入れた授業を行った。 ・学習タイムや放課後フォローアップ、読書タイムについて、1年間継続的に取り組んだ。 ・授業力向上を図るため、授業研究に取り組んだ。 ・高学年で教科担任制を取り入れ、学習指導の効率化を図った。	・道徳科の学習について、全クラスでオリエンテーションを行った。 ・道徳科の授業では、全ての教育活動と関連付けた「フォーカスデザイン」の考えのもと、効果的な授業をめざし、授業形態の工夫を行った。 ・縦割り掃除を中心に活動を行ったが、「仲間づくり」に視点をあてた取り組みは、コロナ禍で実施できなかった。	・学年だより等を通じて、保護者に「早寝・早起き・朝ご飯」の啓発を行った。 ・なわとび記録会やチャレンジランニングなど、大勢が集う活動は難しいため、学年や学級単位で実施するなど、感染状況を踏まえて対応している。 ・避難訓練は、校舎増築工事等もあり、学級指導を中心に実施した。	・図書ボランティアによる、図書室の環境整備を行った。 ・学校便り・ホームページを活用し、子どもや学校の様子を伝えるようにした。 ・地域の団体・企業など、資源の活用が難しい状況であった。コロナの収束とともに、取り組みを再開していきたい。 ・「家庭学習の手引き」を配布し、保護者に協力を呼びかけた。
取組の成果と課題【C】(評価結果)	・県学習到達度調査において、5年生は、「書く」領域において県平均を4%上回ることができた。4年生は、「書く」領域において県平均と同等の結果であった。 ・高学年の教科担任制の成果と課題については、今後検証が必要であり、小学校に馴染む教科担任制を模索していく必要がある。	・道徳の授業における今年度の研究の方向性(フォーカスデザイン)や活動内容等(価値語)について、共通理解をはかり取り組んだ。 ・アンケートの「いじめをなくす学校・学級づくりに取り組んでいる」で、肯定的回答が69%であった。取組が十分とは思わないが、さらに啓発が必要である。 ・縦割り掃除では、異学年を思いやる優しさが醸成され、人を思いやる気持ちが育ってきている。	・生活リズム調べにより、毎日朝食を食べてきている児童が95%で、目標値に到達した。しかしながら、従来のゲームをする時間に加え、Youtube等の動画視聴に費やす時間が増えている傾向にあることが気がりである。 ・運動については、コロナ禍のため、実施方法を感染状況をふまえながら制限せざるを得ない状況であるが、休憩時間等には児童は元気に外遊びをしている。	・保護者アンケート「教育活動や子どもの様子を分かりやすく知らせている」で、肯定的な回答が81%と目標を下回る結果となった。 ・本年度はコロナ禍のため、地域の方や図書ボランティアが学校に来てくれ、児童との交流の機会が少なくなりました。
改善方法【A】(次年度に向けての)	・若手教員の教師力向上を図るための授業研究や学級経営について学ぶ機会を設けるなど、学校全体で取り組みをさらに進める。 ・朝の読書タイムを継続しつつ、市から学校図書館司書を配置いただき、読書環境の整備をしていきたい。また、今後、図書ボランティアの協力を拡大して、文字に親しむ児童を増やせるよう、活動の充実を図る。	・道徳科の授業研究で得た成果を、他の教育活動と関連させ、学んだことを実生活に活かせる児童の育成に取り組んでいきたい。 ・学校アンケート結果をもとに、本校における児童の課題を再確認し、次年度の重点目標設定に活かしていく。 ・児童数増により、縦割り活動について見直していく時期にきている。より充実した縦割り活動ができるよう模索していく。	・コロナ禍における体力づくりについて、感染状況をふまえながら、運動する大切さや楽しさを感じることができるようにしていきたい。 ・生活リズム調べは、生活を見直すきっかけになると保護者からの声も多いため、引き続き実施し、課題のある項目については、保護者に働きかけていく。 ・情報モラルについて、正しい知識と理解の定着に向け、道徳科とも連携し年間を通して計画的に取り入れていく。	・学校だよりや学年だよりの他、学校の取組を理解いただく手段を考えていく必要がある。 ・コロナ禍でとん挫している、地域交流等について、運営協議会委員の方々とともに、内容等検討していきたい。 ・コロナ禍において、どのような形で地域に開かれた学校をめざしていきたいか、検討していきたい。

## 3 その他の課題

・全体的には、児童は落ち着いて学校生活を送ることができている。しかしながら、不登校や保健室登校等、落ち着いて学習に取り組めない児童への対応が課題であるため、関係機関と連携しながら、個々の児童に応じた教育活動に取り組んでいきたい。  
・学校、家庭、地域など関係機関と連携しながら、コロナ禍でも実施可能な取り組みを進めていく。  
・外国語教育やタブレット活用について、円滑に教育活動を進めていけるよう、現職教育で研修を深める。  
・児童数増加に伴い、教室を含めた学習環境の整備が課題である。今年度、校舎増築工事を行っているが、今後の児童数の推移を見守りつつ、教育委員会と連携し対応していきたい。